

三角と四角

巖谷小波

青空文庫

数学の中に幾何というものがある。幾何を学ぶにわ、是非とも定木が入る。その定木の中に、三角定木というのがある。——これわ大方諸君も御存じでしょう。

ところがこの三角定木、自分の体にわ、三方に尖った角のあるのを、大層自慢に致し、世間に品も多いが、乃公ほど角のあるものわあるまい、角にかけてわ乃公が一番だと、たった三つよりない角を、酷く鼻にかけておりました。

すると或る日、同じ机の上にあつた鉛筆が来ていうにわ、

(筆) 三角さん三角さん、お前わ平常から大層その角を自慢しているし、私らもまたお前ほど角の多いものわないと思つていたが、この間来た画板を見たかい。あれわお前よりまた角が多いぜ。

と、いいますから、三角わ少し不平の顔色で、

(三) ナニ僕より角の多い奴がおる。馬鹿いい給うな。凡そ世界わ広しといえども、僕より余計に角を持た奴わないはずだ。

(筆) ところがあるから仕方がない。

(三) ナニそれわ君達の眼が如何かしてるのだ。

(筆) ナニ如何も仕てるものか、嘘だと思ふなら行て見給え!

(三) そんなら行て見よう。嘘だつたら承知しないよ。

(筆) いいとも嘘なら首でもやるワ。

と、これから連れ立つて行て見ますと、なるほど画板わ真ツ四角で、自分よりわ一角多く、しかも今まで自分を褒めていた連中が、今でわみんな画板の方ばかり向いて、頻りにその角を褒めている様子です。

(筆) どうだい嘘じやあるまい。

(三) なるほど此奴わ恐れ入た。

と、さすがの三角定木も、こうなると頭を搔くより他わありません。大いに面目を失いましたが、しかし心の中でわ、まだ負けしみという奴があつて、おのれ生意気な画板め、余計な角を持て来やがつて、よくも乃公に赤恥をかかせやがつたな。どうするか覚えていると、果わ悔しまぎれに良くない了。簡を起しました。

で、そのまま帰ると、直ぐに近所の鋏の処え参り、

(三) 鋏君、申兼たが今夜一卜晩、君の体を貸してくれまいか。

鋏わこれを聞いて、

(鋏) なるほど、次第によってわ貸すまいものでもないが、一体何を切るのだ。

(三) ちつと硬いものを切りたいのだが、よく切れるかい。

(鋏) 大抵なものなら切て見せるが、それでも六かしいと思うならまア一遍磨いで行くさ。

(三) そうか、そんなら磨がしてくれたまえ。痛かろうけども頼まれたが因果だ、ちつとの間辛抱頼む。

と、これから三角定木わ、件んの鋏をば磨ぎ立てまして、もうこれならば大丈夫と、その日の暮れるのを、今か今かと待ちかまえておりました。

その中に日も暮れて、夜も更けて、四隣も寝静まったと思う頃、三角定木わムクムクと床を出て例の鋏をば小脇にかかえ、さし足ぬき足で、彼の画板の寝ている処え、そつと忍んで参りました。

見ると画板わ、前後も知らぬ高軒で、さも心持快さそうに寝ておりますから、
 《し》めた！ おのれ画板め、今乃公が貴様の角を、残らず取り払ってやるからにわ、もう明日からわ角なしだ、いくら威張つても追いつかんぞと、腹の中で散々悪態を吐きながら、突然チヨキリ！ 一角切て落しました、まだ気が付かない様子ですから、また一角をチヨキリ！ それでも眼が醒めないから、こりやよくよく寝坊だわい、といいながら、

チヨキリ！ チヨキリ！ とうとう四角とも切り落し、まずこれで溜飲りゆういんが下がった。どりや帰つて寝よう、缺さん大きに御苦労だつたと、急いでわが家やえ帰つて、そのまま寝てしまいました。

さてその翌朝、何喰くわぬ顔で床を出て見ますと、世間でわ大評判で、逢あう者ごとに、「画板わえらいえらい。」

と、頻しきりに画板を褒め立てますから、如何どうした事かと行いつて見ますと、こわいかに、昨日まで四角であつた画板わ、今朝けさわ八角に成つて、意気揚々と歩あり歩いております。

四角の角々を切り落せば、角の数が倍になつて、八角に成るのわ当あたり然まえ、しかもそれわ自分の所業しわざであるのに、そうとわ心付かぬ三角定木、驚いたの驚かないの！

(三) ヒヤーこりや如何どうじや。アノ四角奴め、一夜のうち中に八角に成りよつた。この分ぶんでわまた明日わ、十角や二十角にも成るだろう、こりや所詮しよせん叶かなわぬわい。

と、とうとう兜かぶとを脱いで降参しましたとわ、身のほど知らぬ大白痴おおたわけ。

青空文庫情報

底本：「日本児童文学名作集（上）」岩波文庫、岩波書店

1994（平成6）年2月16日第1刷発行

底本の親本：「小波お伽百話」博文館

1911（明治44）年1月初版発行

初出：「幼年雑誌」博文館

1894（明治27）年10月号

※本作品は、作者が提唱した、発音どおりの仮名遣い「お伽仮名」によっている。1900（明治33）年から2年間、巖谷小波は、ベルリン大学東洋語学校で日本語を教えたが、その際の経験から、日本語の仮名遣いは煩雑過ぎると考え、お伽噺を発音通りの仮名遣いで表記するようになった。初出時は歴史的仮名遣いで書かれていた本作品も、底本の親本に収録されるに際して、書きあらためられた。

入力：hongming

校正：門田裕志

2001年12月22日公開

2005年11月27日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

三角と四角

巖谷小波

2020年 7月17日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>